



紹介者

近藤 正晃 ジェームス

国際文化会館
理事長

山田 メユミ

アイスタイル
取締役
バンクフォースマイルズ
代表理事



産業界の「ある」と 社会の「ない」をつなぐ

昨年11月、化粧品や物流企業の有志の方々と非営利法人を設立し、企業が有する化粧品や日用品の余剰品を集め、経済的困難下にいる主にひとり親世帯の女性たちへ定期的にギフトする「コスメバンクプロジェクト」を開始した。きっかけはシングルマザー支援団体を通じて聞いた「子どもの卒業式なのに口紅ひとつなく、マスクで顔を隠して参列するしかなかった」という、ある女性の悲しい一言だった。化粧品とは女性のQOLを高め、幸せをもたらせる存在だと自負して業界に従事してきたつもりであったが、手にできないことで女性を苦しめてしまう現実もあるのだと気付かされ、大変ショックを受けた。以来「一つでも多くの笑顔が生まれたら」という^{おも}想いで同志と共に活動している。

現在の日本のひとり親世帯における相対的貧困率は50%。OECD平均31%と比較しても非常に高い。加えて昨今多くの報道もなされているように、非正規雇用の多い女性の貧困問題はコロナ禍によって一層深刻さを増している。一方、業界誌調査による化粧品年間廃棄額は約5,000億円。各社が環境負荷軽減に向けて^{しんし}真摯に取り組んでおられるが、季節性やトレンド性、機能性向上が求められ、競争の激しい市場においては新たな提案を続けざるを得ず、また流通の商慣習もあって、一定の余剰が生じてしまう構造を一夕一朝に変えるのは難しい。

今回の呼び掛けに多くの企業が快く応じてくださり、数カ月で15万点、約2億円分の商品を頂いて、支援団体のお力もお借りし、全国2.2万世帯へお届けした。女性たちからは多数の喜びのお声が寄せられ、それらを目にして涙ぐまれた経営者もおられる。女性の幸せを願い、愛情を込めて生み出した製品たちに使命を果たさせたい。その想いはどの企業においても共通だとあらためて感じる。「女性と地球にスマイルを」を合言葉に、単なる支援する側と支援される側にとどまらない、双方や社会にとって意義ある活動のあり方を今後も模索し続けていきたい。また食品をはじめさまざまな分野で多様なチャレンジが生まれていると聞く。ぜひ多くの方々との共創により、笑顔の輪を広げていきたいと願っている。

▶▶ 次回リレートーク

平野 未来

シナモン
取締役社長CEO